

※身近なところにクマがいることを意識し、クマと「鉢合わせ」にならない工夫をしてください。

※誘引物には強い執着を示し、誘引物を放置しておくとも多数のクマを集めてしまいます(以下の2を参照)。

1 クマに出会わないようにするために

- 山に入る時は、鈴など音の出る物を持ちましょう。

「沢沿い」や「山の尾根を越えるとき」は音が伝わりにくいため、特に注意が必要です。

- 「明け方」や「夕暮れ時」はクマの活動が活発になります。

人家付近であっても、この時間帯に散歩する場合は、必ず鈴などの音の出るものを携行しましょう。

2 クマを引き寄せないために

- ☆ 誘引物の管理を徹底し、できるものは除去してください。

生ごみなどを野外に放置すると、クマの誘引物になります。

誘引物の例：養蜂箱、農作物(特にトウモロコシ・果樹等)、廃果(リンゴ等)、収穫されないカキ、養魚場(魚及び廃棄魚)、家畜飼料、ペットフード、漬物、ゴミ(生ゴミ、ゴミ箱、空き缶等)、バーベキューの残渣、雑排水、油性塗料、わなにかかったシカ

- ☆ クマは「なわばり」を持たないこと、大変嗅覚が優れていることから、エサになるものや好物があると1頭を捕獲しても次から次へと違うクマが出てくる可能性が高いといわれています。被害にあう農作物等は電気柵等で守り、廃果や生ゴミは野外に放置せず適切に処理してください。

- ☆ 集落周辺のクリ・カキ等は、クマを誘引する可能性が非常に高いため、被害前に採取するか、伐採を検討してください。

令和2年9月20日に人身被害が発生した現地にあったクマの糞の内容物は、全て「クリ」でした。

なお、伐採できない場合は、クマが幹に上りこくするためのトタンを巻くなどの防除対策を行ってください。

3 その他の注意喚起ポイント

- 山や森林は「クマの生息域」です。

山に入るときは、常にクマがいるという意識を持ちましょう。

また、段丘林や河岸林はクマの移動ルートになりやすいので、付近で散歩や作業をする際には鈴やラジオ等の音の出るものの携行を心掛けましょう。

- 子連れのクマに注意してください。

母グマは、雄グマに子グマが捕食される恐れなどの理由により、非常に神経質になっています。子連れのクマには絶対に近づいてはいけません。

- 散歩に犬を同行する場合は、必ず係留紐(リード)を犬につけましょう。

犬に係留紐(リード)をつけることは、長野県の条例で義務付けられています。

過去には、係留紐を外した犬が藪にいたクマを追い出して事故になった事例があります。

4 クマに出会ってしまったら

- 大声をあげたり石を投げたり走って逃げたりすると、クマが興奮して飛び掛かってくる場合があるため、クマの動きを見ながら、ゆっくりと後ずさりしましょう。

万が一、クマに襲われた場合は、首の後ろで両手を組んで「頸動脈(けいどうみやく:首の左右両側)」を守りながら、丸くなって地面にうずくまり、「内股」や「臍(ひかがみ:ひざの裏側、いずれも太い血管がある箇所)」を守る態勢をとり、重症化を避けるよう防御しましょう。